

【代表研究者】

徐 阿貴

お茶の水女子大学 人間文化研究科 博士課程

【研究題目】

在日コリアン女性の公領域参加

- 東大阪市立太平寺中学校夜間学級独立運動の展開から -

【研究の目的】

本研究では、東大阪市での在日コリアン女性（主として1世）による「学びの場」を求める運動（夜間学級独立運動）と、これを契機に展開された新たな活動推進拠点づくり（自主夜間学級、自立高齢者のデイハウス）に焦点をあてる。従来の在日コリアン運動では1世女性が「母」あるいは「妻」として参加していたのと異なり、この運動では女性らが自らの権利を主張する主体である。研究目的は以下の3点である。

- A. 世帯、民族組織、地域社会における在日コリアン1世女性の周縁化の背景を、民族、ジェンダー、階級などの要因により明らかにする。
- B. 在日コリアン女性が公立夜間中学を媒介として連帯し、運動を行い、地域社会という公領域に参加する過程を、新しい主体形成とエンパワーメントの局面から明らかにする。
- C. 一連の動きを、地域社会を単位とした公共空間を多元価値的なものにするための運動として位置づけ、その成立条件と限界を明らかにする。

【研究の内容・方法】

本研究では、東大阪市における在日コリアン1世女性を中心とする夜間中学独立運動を契機とする、在日後続世代や日本人も含む市民運動の展開プロセスと、そこで形成された在日コリアン1世女性の新しい主体のあり方を検討し、マイノリティ女性の公領域参加を通じたエンパワーメントについてエスニシティとジェンダーの視点から考察した。調査の具体的な方法と内容は以下の通りである。

1. 一次資料の収集

大阪府の在日韓国・朝鮮人の人口動態、集住地域の生活状況

東大阪市立太平寺夜間中学独立運動について

自主夜間中学「ウリ・ソダン」、デイハウス「さらんばん」の設立経緯、メンバー構成、運営主体、活動内容について

2. 参与観察

夜間中学、「ウリ・ソダン」、「さらんばん」における日常的な活動や、これらが主催するさまざまな行事に参加し、在日コリアン1世女性、その他の定住外国人、日本人、在日後続世代、地域の市民運動家の間で行われる相互作用について参与観察を行った。

3. ライフヒストリーの聞き取り

元および現役夜間中学生徒である在日コリアン1世女性を対象に行い、彼女たちの生活史に織り込まれている民族とジェンダー要素の析出を試みた。聞き取りの主な項目は以下の通りである。朝鮮での生活状況、日本への渡航、定着、識字状況、家族生活、仕事、在日コリアン社会での活動、夜間中学で学習を始めた契機、目的、障害となったこと、独立運動への参加理由、役割、現時点での感想、在日コリアン1世女性の活動拠点としての「ウリ・ソダン」「さらんばん」の意義や抱負、在日コリアン女性としての意識の変化。

【結論・考察】

1. 在日コリアン1世女性は、言語文化的障壁と民族的差別に加えて、ジェンダー化された公私領域の区分によって、日本社会への参加が著しく制限されている。夜間中学その他の活動拠点への関りは、在日コリアン1世女性の公領域参加の契機となっている。しかしそのことと、私領域における彼女たちのエンパワーメントとの直接的なつながりは確認できなかった。

2. 夜間中学、自主夜間中学、デイハウスでは、数的マジョリティである在日コリアン1世女性たちが主体となる空間が形成されている。また1世女性が持つエスニックな資源が再認識され、地域社会や在日コリアン社会での主体化に活用されている。

3. 事例とした運動には、地域社会の多元化を担う市民運動家および在日コリアン後続世代が大きく貢献している。他方、運動では「女性」という特性が捨象される傾向にあった。なぜそうなるのかについては、今後の考察課題としたい。